

学校図書館を授業の場にすれば再生する

～学校図書館の学習センター化推進を通して～

小平市立小平第十四小学校

〒187-0042
東京都小平市仲町33

<http://www.kodaira.ed.jp/14kodaira/>

1. 研究の背景

・平成25年度（昨年度）……東京都教育委員会より3年間継続の「言語能力向上」についての研究指定を受けた。一昨年度の研究であるICT機器の活用継続だけでなく、音読・暗唱、視写、漢字指導などについての指導法の統一を図っている。

・平成26年度（今年度）……言語能力向上策の一つとして「学校図書館の活用」を従前より計画する。学校図書館を、まずは授業の場としていくことが活用につながると考えて指導計画を作成中である。

2. 研究の目的

学校図書館を読書活動や図書の貸し出しだけではなく「学習の場」とすることで、多様な学びができ、学びの質も深めることができると考え、この研究に取り組んでいく。

具体的には、パソコンを使った調べ学習、実物投影機を使った図書紹介などの発表活動などを学校図書館ですること、読書だけではなく多様な学習が展開でき、学校図書館がよみがえることを意図してこの研究に取り組んでいく。

3. 研究の方法

- ・7回の授業研究によって、仮説を実証し、日々の授業に活かす
- ・実技研修会を通して、ICT機器の効果的な使い方を学び、授業に活かす
- ・学校図書館のレイアウト・設計などを通して、学習の場としての図書館のあり方を全体で検討し、授業に活かす

4. 研究の内容・経過

(1) 内容

- ・どんな調べ方があるかを発表しよう（3年以上）
 - 図書による調べ方の特徴・発表
 - パソコンによる調べ方の特徴・発表
 - 図書検索システムの活用
 - どの場面でどんな調べ方が有効かを実際の体験から学ぶ

- ・偉人伝を10分間で読書しよう 1（全学年）
 - 10分で読める偉人伝を使い、全員が同じ人を読み、感想をまとめる
 - その感想を、実物投影機を使って発表する
 - 自分がよかったと思うことをわかりやすくまとめる
- ・偉人伝を10分間で読書しよう 2（全学年）
 - 10分で読める偉人伝を使い、それぞれが違う人を読み、感想をまとめる
 - その感想を、実物投影機を使って発表する
 - 次にどの人を読みたいかを発表し合う
- ・書き出しから学ぼう（3年以上）
 - いろいろな本の書き出しで気に入ったものを書き出す
 - 書き出したものを実物投影機で発表する
 - 書き出しの特徴を分類分けをして、どんな工夫があるかを見つける

（2）経過

- ・4月 学校図書館のレイアウト決定
 - 使いやすい、授業しやすい学校図書館に全教職員で変身させる
 - 研究計画確認
- ・5月～ 毎月1回（8月除く）
 - 授業研究（年間7回で全員が授業を公開）
 - 学年…全学年
 - 教科…国語
 - 規模…校内での研究 対象…校内教職員
 - 調べ学習の道具としてタブレットパソコン
 - タブレットパソコンの役割…検索システムの活用方法などがわかる
 - 発表の道具として実物投影機 ホワイトボード
 - 実物投影機の役割…大きくテレビに映すことでわかりやすく全体のものとなる
- ・5月、10月、2月 学校公開日（年3回）
 - 公開授業（全員が3回のうちの1日1時間を学校図書館で授業を公開）
 - 学年…全学年
 - 教科…国語
 - 規模…参観自由 対象…保護者、地域住民
 - 偉人伝を読んで、その感想を発表する
 - 発表の道具として実物投影機 ホワイトボード（高学年はパソコンも可）
 - 実物投影機の役割…絵や文を大きく映すことでわかりやすくなる
- ・日々の授業で（2週間に1回は学校図書館で授業実施）
 - 学年…全学年
 - 教科…国語を中心に
 - 規模…学年での研究 対象…学年の教員

発表ツールの活用方法の共通理解

新しい実践の開発

使い方をマスターするために、タブレットパソコン 実物投影機を使用

- ・ 3月 小平市教科等研究会発表会 リーフレット配布による発表
対象…市内小学校教職員
学校図書館の活用について タブレットパソコン 実物投影機の効果的な使用

5. 研究の成果

(1) 成果

- ・ 学校図書館が学習の場となることで、多様な活動が展開され活用度があがった。
- ・ 学校図書館は本だけ読む場所というイメージが一新された。
- ・ 学校図書館利用者が増え、読書活動が活発化した。

(2) 効果

- ・ ICT活用が学校図書館でも推進できることがわかり、教室の授業での活用が増える。

(3) リーフレット作成

- ・ 研究の成果を3つ折りのリーフレットにまとめ、市内教職員に配布することで、研究成果をわかりやすく説明することができた。(4ページ目と5ページ目にリーフレット掲載)

6. 今後の課題・展望

- ・ 本校の研究が端緒となり、市内の特別支援学級に平成27年度よりタブレットパソコンが導入されることとなった。タブレットパソコンの活用の仕方をさらに市内に広めていくこと、これが一番の課題である。
- ・ 学校図書館での検索など、パソコンのOSによって左右されるので、タブレットパソコンの購入にあたっては、業者などと十分な検討していく必要がある。

7. おわりに

今回パナソニック教育財団から助成をいただき研究する機会を得たことで、校内だけでなく、市内小学校に成果を示し、小平市のタブレットパソコン研究の先駆けとなった。このことは、本校教職員の自信にもつながり、今後の研究への意欲付けにもなっている。

来年度は、東京都の言語能力向上拠点校として、小平市の研究推進校として、平成28年1月29日(金)に発表会を実施する。その際は、今回の研究の成果を披露するだけでなく、ICT機器のさらなる活用法を示せるようにしていく。



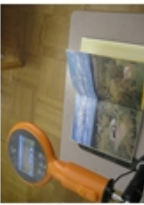
教育助成金の使い道…

- 本校では、平成26年度 公益財団法人 パナソニック教育財団から「実践教育助成」として50万円の助成金を受けることができました。

校内で検討した結果、今年度はタブレット型の端末を活用した実践を中心に行うことにしました。

- 端末は Apple社の iPad air 16GB を6台に決定。
- パナソニック社の「まうげんくん」も1台購入。
- さらに校内研究の研究主題である「学習を深めるための学校図書館の活用」をうけて、ワイヤレスプリンターと Apple TV を図書室に設置。iPadとの連携を強化。

公益財団法人
パナソニック教育財団
Panasonic Education Foundation



読み聞かせにはちよつと小さい本でも、「ぼろけくん」を使うと大画面で鑑賞できます。



「みんな、このグループみてごらん」
その場で全員に情報発信することが出来ます。



平成26年度

タブレットを活用

した実践事例



小平市立小平第十四小学校

わかりやすい授業をしたい！子どもたちの学力を伸ばしたい！そんな先生のための ICT 活用を応援します。 Panasonic Education

タブレットの活用準備

タブレットを小平市の教育用ネットワーク(授業用パソコン)が使っている Wi-Fi に入れました。(小平市教育員会の支援を受けて)



Apple ID、パスワードを取得します。

図書室を学習センターに

図書室は、本を読むところ・情報を集めるところ。インターネットだけが調べ学習のツールではありません。

そこで、タブレットの検索機能をわかりやすく、より簡単にして、図書室でも使えるようにしました。具体的な例は「ポブラディアネット」の活用です。



school.populadialnet.

にログインすれば、**無料で利用**できます。

子どもが使えタブレット

タブレットの操作はとても簡単です。特に子どもは直感的に操作しますので、様々な発見をしながら使い込んでいると思います。

学習に役立つアプリケーションは多くありますがたとえば漢字の練習。漢字の習得に相違が有効であることは、本校の校内研究で実証されています。

また、楽しみながら都道府県を教えるアプリーションもあります。使い方を教えなくても、子どもは自然に使えるようになっていきます。



体育の学習では、互いの動きをビデオで撮影することで、より具体的な学び合いを表現することができました。

話し合いの様子をビデオで撮りかえることにより、メタ認知力を高める学習につながりました。

データの保存

付属の USB を共用のパソコンに接続するだけで、簡単にデータを読み出せます。



「ぼうけんくん」の活用

テレビにアクセスポイントを接続するだけで、ワイヤレスの实物投影機になります。



机間巡視しながらノートをテレビに映し出し、静止画保存して子どもの発表活動に利用したりするなど、教室での活用はもちろん専用のスタンドを使った図書室での「大画面読み聞かせ」も可能です。

可能性は広がる

小学校教育におけるタブレット型端末の活用方法は他にもたくさんあります。小平市内には、本校より優れた実践が多くあると聞いています。予算の確保について課題が尽きませんが、互いに学び合う機会を多く設けたいものです。